

こくさい教室の現状と課題

丸亀市立城乾小学校

1. 外国にルーツがある児童の状況

(1) 児童数の推移

	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
全校児童数(人)	257	262	263	251	260	264	262	248	234	214	182	171	145
外国にルーツ(人)	34	38	31	43	41	58	48	52	49	46	38	31	31
外国にルーツ児童の割合	13.2%	14.5%	11.8%	17.1%	15.8%	22.0%	18.3%	21.0%	20.9%	21.5%	20.9%	18.1%	21.4%

① H28年度をピークに外国にルーツがある児童数は減少の傾向にあるが、全校児童数も減少している。近年、外国にルーツがある児童の割合は約20%で推移している。

② 特別支援学級の3組を除きすべてのクラスに外国にルーツがある児童が在籍している。

(2) 本校の実情（全校生徒145名）

① 外国籍児童が28名、外国にルーツがある日本国籍の児童が3名、合計31名と学校全体の約21.4%（5人に1人）を占める。（R5.6現在）

② 児童の多くは、日常生活に使われる生活言語能力にはあまり支障はないが、学習に使われる学習言語能力は十分ではなくまだまだ支援が必要である。

③ H27年ごろからは、日本語が全く話せない状態で学期途中に編入してくる児童が増え始めた。

④ 家庭で家族と話す言語は日本語の場合もあるが、母国語の割合の方が高い。また、家事都合（一時帰国も含む）で何日も続けて欠席し、覚えた漢字や日本語を忘れてしまい学習に遅れの目立つ児童がいる。

⑤ 令和5年度の1年生は、14名中5人が外国籍児童であるため、週4時間こくさい教室担当が教室に入り込んで学習の補助をしている。

国籍およびルーツの国	人数
ペルー	16
フィリピン	5
中国	5
カナダ	2
台湾	2
パキスタン	1

(3) 現在取り出し指導を行っている児童

【こくさい教室の取り出し児童数（R5.6現在）】

	外国籍児童数		日本国籍児童数		合計
	取り出し数	取り出していない数	取り出し数	取り出していない児童数	
1年	0	5	0	0	5
2年	0	4	0	0	4
3年	3	0	0	1	4
4年	4	0	0	2	6
5年	7	1	0	0	8
6年	0	2	0	0	2
1組	2	0	0	0	2
合計	16	12	0	3	31

2. 指導の実際

(1) こくさい教室の目標

- ・ 日本語による日常会話が習得できるようにする。
- ・ 在籍学級での学習にできるだけ参加できるようにする。
- ・ 日本語の通じない児童が、学級で児童どうしのつながりを深められるように支援をする。

(2) 本年度の重点目標

・ 児童の学力保障

初期指導 … 学校に適應するための指導と簡単な日本語指導
にほんご教室（丸亀市日本語適應教室）との連携

初級・中級指導 … 教科内容とことばに留意した指導

・ 外国にルーツがある児童の自尊感情の育成

(3) 日本語能力の実態把握と取り出し指導

① 年度末に毎年実施するJSLバンドスケール※で日本語能力を把握する。

「聞く」「話す」「読む」「書く」のそれぞれについて、レベル4を取り出し指導の境界線とするが、学級担任と話し合ったり本人の希望などを考慮したりして柔軟に対応する。必要があれば、単元や学期ごとに見直していく。

② JSLバンドスケール個人票を作成し、児童の言語環境と日本語能力レベルを、継続してとらえていく。

※ JSL (Japanese as a Second Language) バンドスケール＝

日本語を第一言語としない子供たちの言語能力を把握するための測定基準

(4) 児童の学力向上

① 個々の日本語の能力や学習の理解度を把握し、指導内容と目標を明確にする。

② 日本語能力に合わせてリライト教材を活用し、やさしい日本語で学年相当の教科内容を教えることを目指す。また、一人ひとりにルビ付き教科書を持たせることで在籍学級の授業に参加しやすくする。(国語・理科)



③ できる限り在籍学級の学習と取り出し指導での学習を関連づけ児童の学びに連続性をもたせる。また、「理解するための支援」「表現するための支援」を大切にし、分かる授業を行う。

④ 夏休みの学習相談日には、図工や習字作品などの児童だけでできない宿題を手伝う。

⑤ 「ことば絵じてん」「学校で使う みんなのことば」やタブレットなどを活用し自分にあった教材で日本語を学ぶ。また、分からないことは自分で調べる習慣をつける。

⑥ 学習の記録をノートやファイルに残す。

⑦ 学生ボランティアを活用し、できるだけ個々に対応していく。

⑧ 児童の来日年数や日本語の能力を考慮し異学年での授業をする。

(5) 担任との連携

① 連携用ノートを活用し、毎日の授業の様子を知らせたり、知り得た情報を共有したりする。

- ② JSL 児童票を作成し、成育歴や日本語の能力等を継続して観察していく。(年度始め・年度末に記入)

(6) 「丸亀市にほんご教室」との連携

- ① にほんご教室に通う本校の児童が、スムーズに在籍学級やこくさい教室で生活したり学習したりできるように、にほんご教室と連絡を取り合う。

(7) ホームルーム(水・3時間目)の取組

- ① 対象 3年生以上の外国にルーツがある児童
② 日本の文化・伝統を実際に体験したり母国の文化・伝統と比べたりする中で、生活をより豊かなものにする。
③ 日本独特の言い回しや表現を知る。
④ 学年を超えて交流をもち、自分の居場所となるようにする。
⑤ 生活する上で必要な日本語を学び、家族に教えることができるようにする。

(8) 多文化共生を目指す体制作り

- ① こくさいタイム … 年2～3回程度
- ・ 全校生が、外国にルーツのある児童のことを理解し、外国籍児童を含め一人ひとりが安心して学び、生活できるようにする場を設定する。
- ② 共有ホルダーの作成
- ・ 日本語に通じない児童のための学習補助教材、教室掲示等を全職員と共有する。
 - ・ 国語・理科・(社会)のルビ付き教科書
- ③ 保護者への啓発・周知
- ・ 学校からのお便りをやさしい日本語で文書を作ったり、母国語翻訳付文書を添付したりすることで、保護者が理解しやすいようにする。
 - ・ 入学周知会、入学式、宿泊学習、修学旅行等の説明会を開く。(教育活動支援員による通訳)
- ④ 教育活動支援員による母語指導・日本語指導をする。
(スペイン語、英語、タガログ語、ビサヤ語、中国語)

3. 成果

○ 取り出しと個に応じた指導による学力の向上

H28年度よりこくさい教室指導担当が二人になったため、より多くの学年で指導できるようになった。個人の能力に合わせて、日本語・漢字・計算等の個別指導を行い、きめ細かな指導ができるようになってきている。また、ほとんどの学年で指導内容の精選をし、スモールステップで進めたり操作活動を多く取り入れたりすることで理解を深めるユニバーサルデザインを大切にした授業を進めているので、少しずつ学力が身に付いてきている。

○ 日本語での学習力の育成

外国にルーツのある児童は、徐々に日常会話は苦にしくなるが、学習するための言葉が十分でないとな学力の向上につながらない。その背景には、家庭では母国語を話し学校でしか日本語を話さないということが要因のひとつだと考えられる。そこで、日本人の友だちをたくさん作ったり休み時間に教師に話しかけたりするよう声をかけることで日本語での学習力を育ててきている。また、こくさい教室でも家庭学習の仕方を指導したり、授業中に辞書やタブレットを使って授業を行ったりすることで、自分がわかって

いることとわからないことをはっきりさせ、わからないことを教師や友だちに尋ねることが出来る力をつけてきている。

○ 保護者への説明会の充実

屋島宿泊学習や修学旅行の説明会を、学年の説明会と並行してこくさい教室で行っている。毎年ほとんどの保護者が参加している。準備するものや日程の確認などを簡単な日本語で伝えたり、写真や準備物を実際に見せたりしているが、両親で参加する保護者も何組もあり、関心度の高さが伺える。



授業参観後には、メール配信の参加の呼びかけを行っているが、外国にルーツのある児童のメール配信の参加率は低いので、続けて呼びかけていきたい。

4. 課題

○ こくさい教室担当教員の増員（新入生・転入児童への対応）

こくさい教室担当教員は2名であるが、取り出し指導が必要な児童すべてに指導ができていないわけではない。必要度の高い高学年の児童への指導を優先して時間割を作成しており、1・2年生の中には、取り出し指導が有効であるが指導に手が回っていない状況である。特に今年度の1年生14名のうち5名が外国籍児童であり、日本語を全く理解できない児童が1名。4名は、日常生活の言葉についても十分ではなく、学級の授業に参加できるようになるまでには、個別指導が望ましいが、実際は、人手不足の状況であり十分な体制とは言えない。

また、こくさい教室担当教員の2名とも臨時的任用教員であり、1年ごとの任用となっている。また、在籍年数も長くなっているため、計画的に引き継ぎを行い、教員が入れ替わっても指導の質を落とさない体制づくりが必要である。

○ 家庭との連絡手段の確保

外国にルーツがある児童に不登校傾向がある場合、欠席や遅刻の際に、家庭との連絡がとれないことが多い。保護者には、家庭訪問や電話等で連絡が必要であることを依頼しているが改善しない場合がほとんどである。

また、児童間のトラブルの際、聞き取りに時間がかかるとともに、保護者への説明にも苦慮している。

○ 家庭へのプリント配布の際の母国語への変換業務

大切なお知らせプリントは、分かりやすい日本語にするとともに、母国語に変換したプリントを配布している。(スペイン語、中国語、英語での配布)しかし、これらの言語に精通した教職員はいないため、こくさい教室担当が手探りで変換業務を行っている。

○ 他校とのネットワークづくり

東中のこくさい教室の教職員と情報共有を行っているが、十分ではないため、今後情報交換の機会を増やしていきたい。

また、他郡市からの教材や保護者への手紙などについて相談や外国人児童生徒への対応等に関して問い合わせがあるため、こくさい教室教員が中心となり、各小・中学校へ発信し情報を共有していきたい。